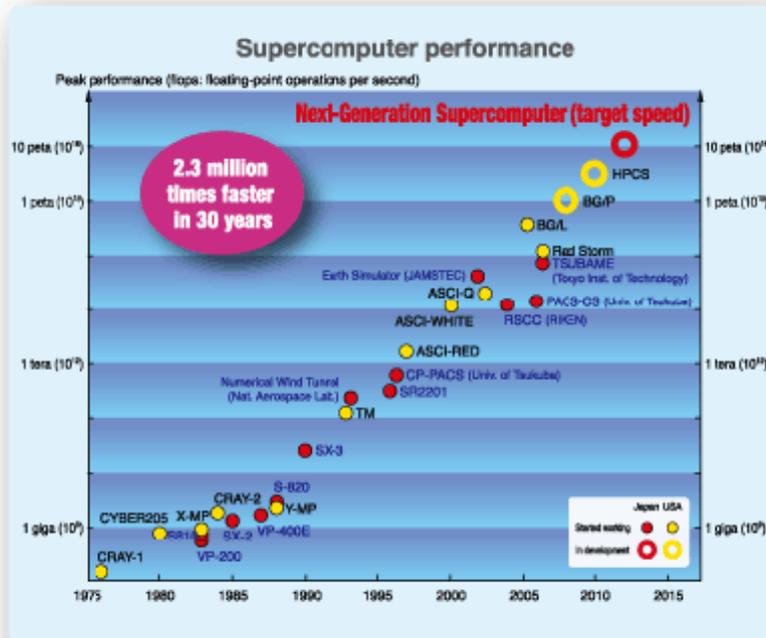
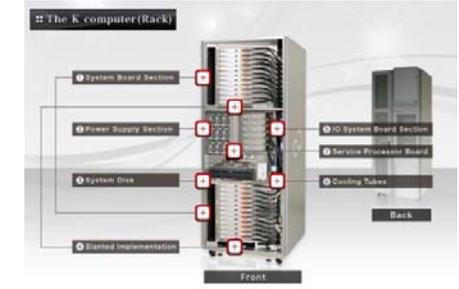


スーパーコンピュータを使う 地震シミュレーションの利用

堀宗朗

東京大学地震研究所
 理化学研究所計算科学研究機構

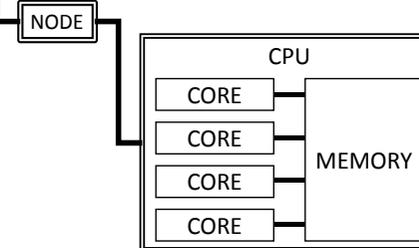


HIGH PERFORMANCE COMPUTING

高性能計算 (並列計算)

- 多数の計算ノードを使用することで、計算速度を向上
- 計算ユニット間のデータのやり取りの削減が重要

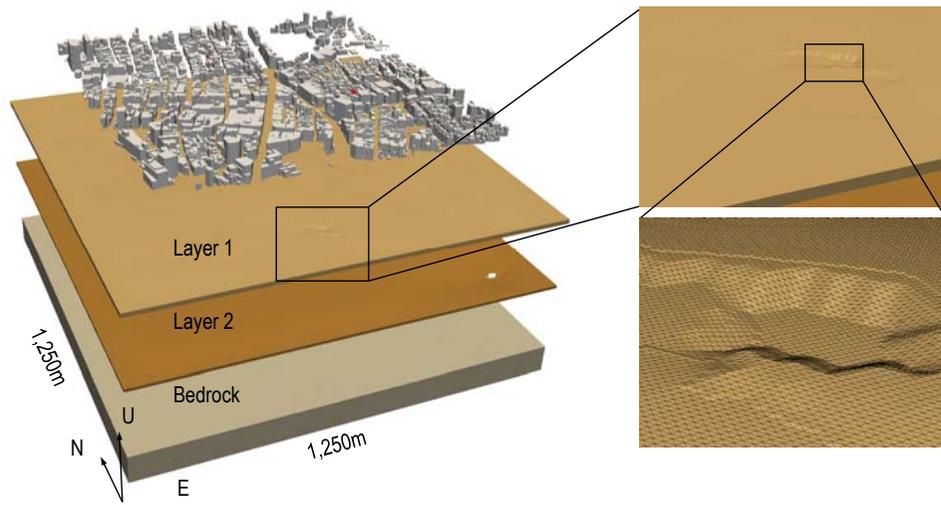
並列計算機



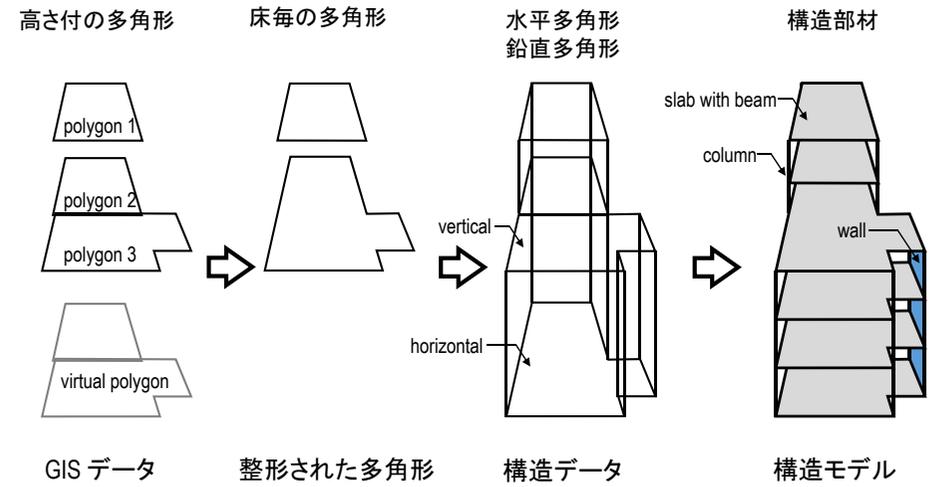
- CPUに計算を配分
- CPUは独自のメモリを持つ
 - MPIを使用
- コアに計算を配分
- コアは同じメモリを使う
 - OpenMPを使用

京計算機	ノード数	88,128	864ラック × 102
	CPU数	88,128	88,128ノード × 1
	コア数	705,024	88,128CPU × 8

東京の地震シミュレーション

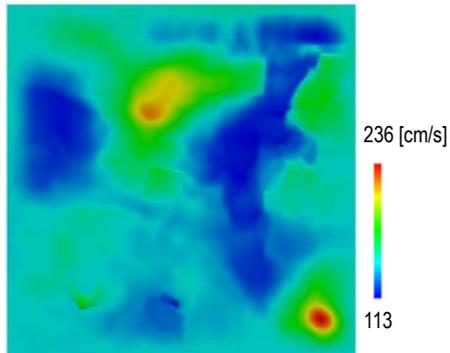


都市モデル



IES TOKYO: RESULTS

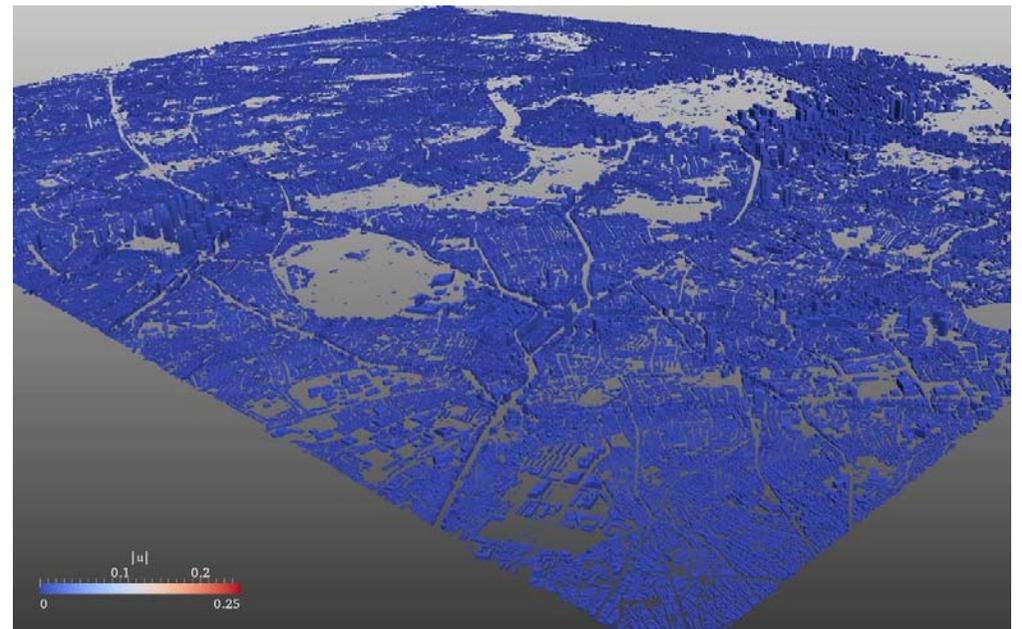
$$SI = \frac{1}{2.4} \int_{0.1}^{2.5} S_v(T) dT,$$



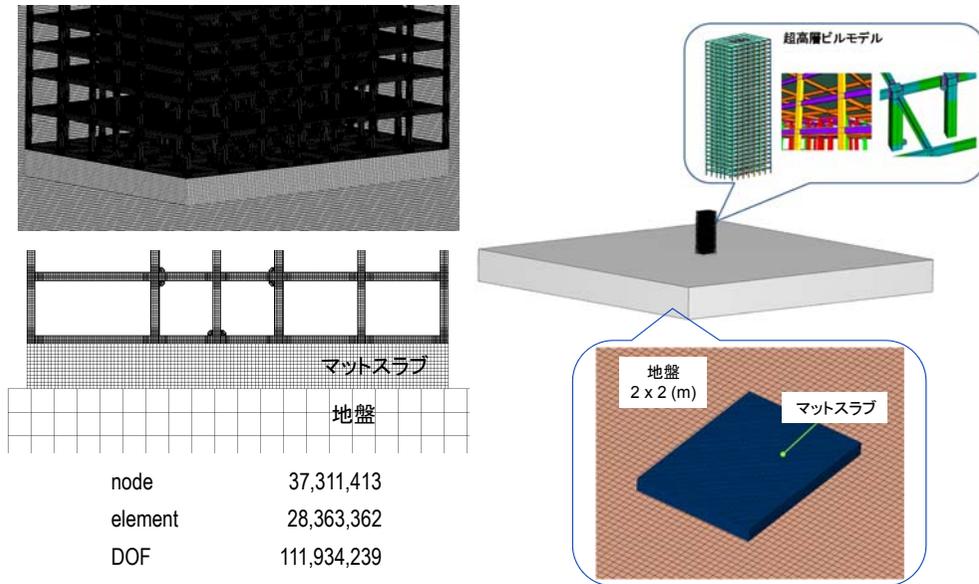
Surface Ground Motion
(horizontal norm of SI)



Structure Response
(max. drift angle)



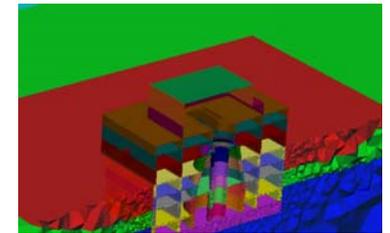
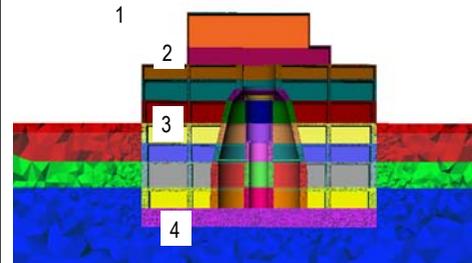
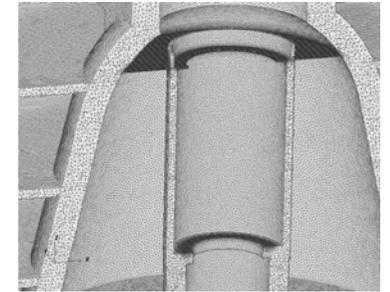
超高層ビル-地盤モデル



原子力発電所

domain dimension 540 x 540 x 250 m
 number of nodes 33,613,809
 number of elements 22,443,096

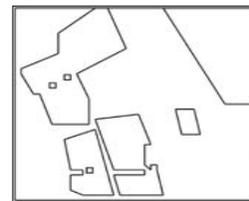
MatID	Vp (m/s)	Vs (m/s)	ρ (kg/m ³)	h (%)
1	1529.7	300	1825	5
2	1529.7	300	2000	5
3	1580.7	310	1780	5
4	1625.1	490	1700	3
5	1710.8	560	1750	3



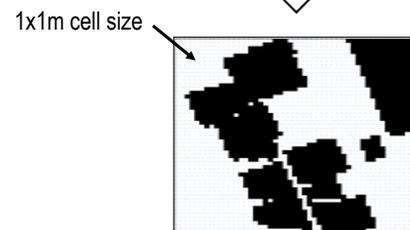
MAS (マルチエージェントシステム)

◆ エージェント

- 見る, 考える, 動く, という機能
- 多様な能力レベルとデータ
住民・旅行者・警官等, 自動車



GIS data



raster model for MAS

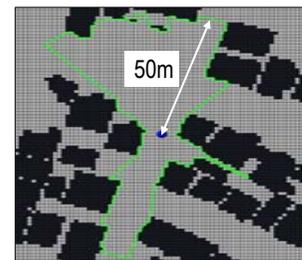
◆ エンバイロメント

- 格子モデルとグラフモデル
- GISデータを使った自動構築

ナビゲーション

レーダー型スキャンにより, 視野の範囲を同定し, 地物の情報を抽出

- エージェントは自動的にナビゲーションを行う
- 住民エージェントは地図データを持ち, 最適経路を判定
- 旅行者エージェントは高所を捜し, グループに追随

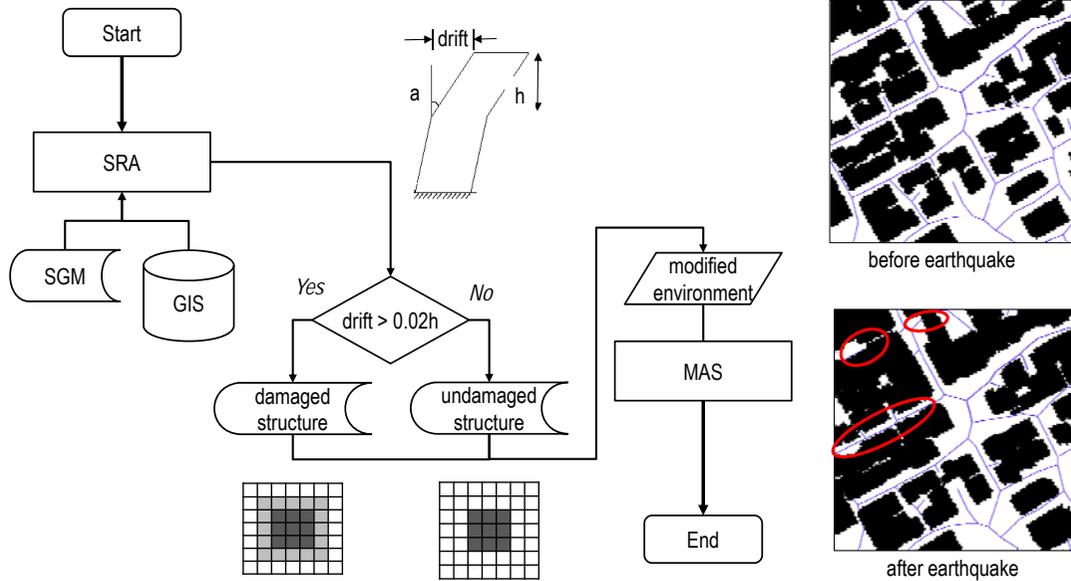


resident agent (pre-defined path)

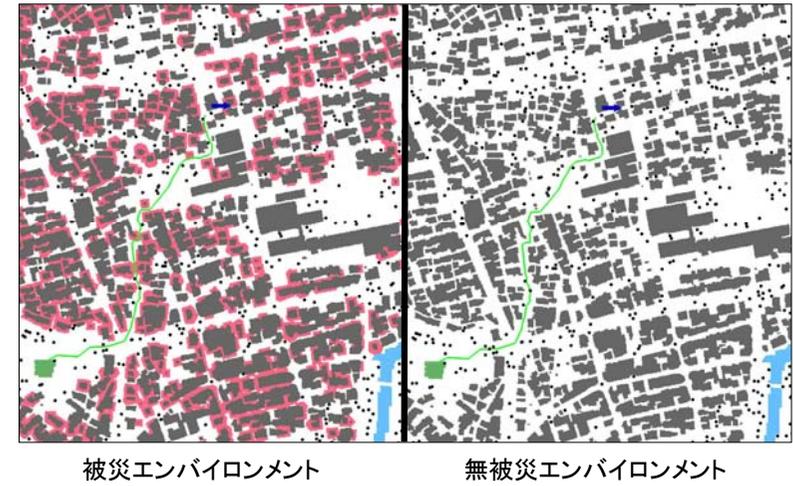


visitor agent (no pre-defined path)

地震応答と避難の連成



被災箇所でのナビゲーション



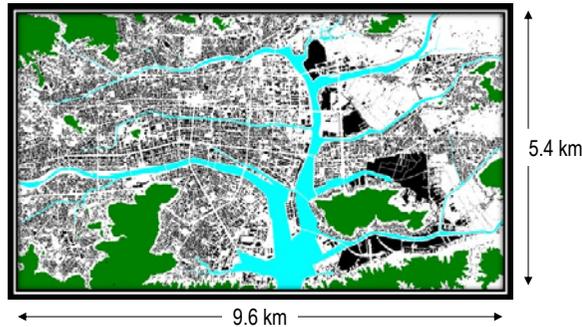
問題設定

環境: 高知県高知市
(面積 51.84 km²)

- 地震動
- 津波侵入

住民エージェント

- 55% - 50歳以下
- 45% - 50歳以上



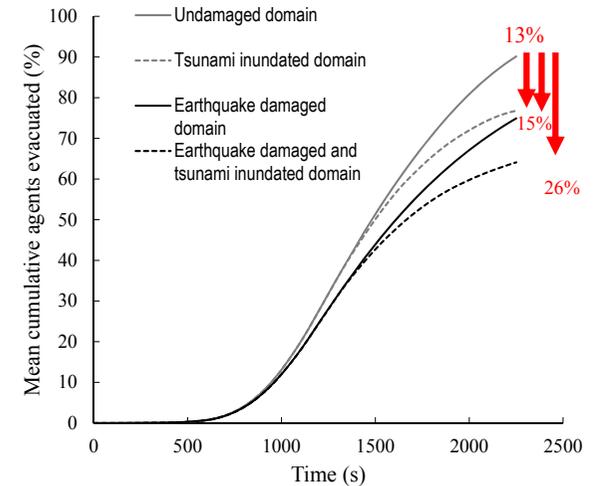
agent settings

age (years)	< 50	> 50
maximum velocity (m/s)	1.436 ± 0.11	1.394 ± 0.19
pre-evacuation time (s)	1000 ± 600s	

地震動と津波の連成



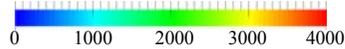
cyan: nominal water level
blue: inundation greater than 0.5m



道路の使用状況



道路使用度の平均



防災計画立案の際に、耐震補強等の優先づけに利用

- 避難状況の概要
- 道路の利用状況の概要
- 重要道路の抽出 (使用度 > 500)

- 1,000回のモンテカルロシミュレーション
- 平均使用度が500を超えた道路が重要道路

イベント

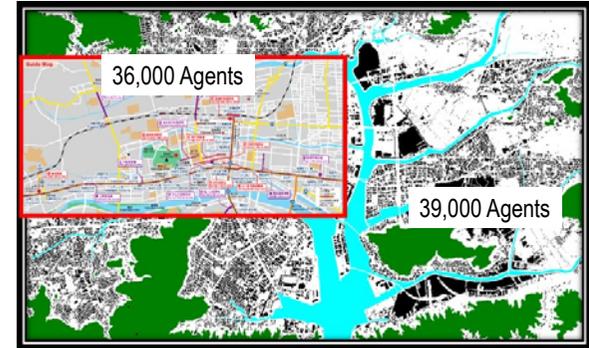
イベント: 住民の他、多数の旅行者の参加が見込まれる

密集領域

- 市の中心部 (15 km²)
- 四角形

課題

- 道路照明の影響
- 臨時避難場所の導入の効果
- 道路被害の程度の影響



agent characteristic	number
visitor agent participating event	18,000
resident agent participating event	18,000
resident agent not participating event	43,000
total	75,000

道路照明の影響

災害シナリオのオプション

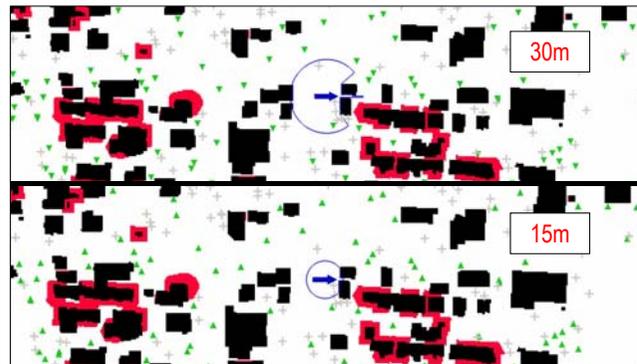
- 揺れ
- 満月時の停電
- 津波の侵入

設定

- 視野は15m (0.2 lux)
- 旅行者エージェントは住民エージェントを追随
- 遅延のない避難

比較

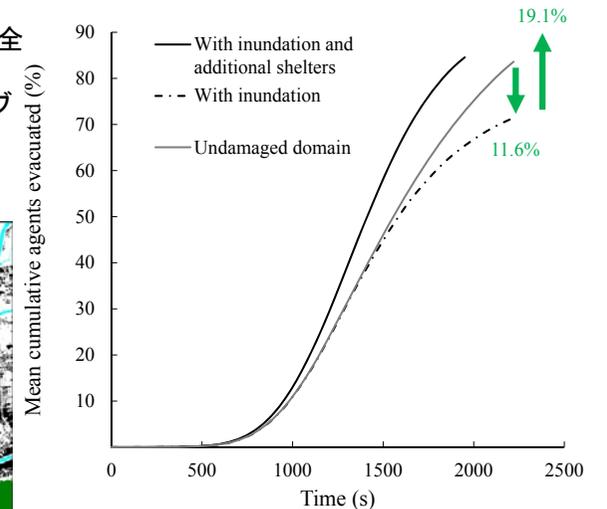
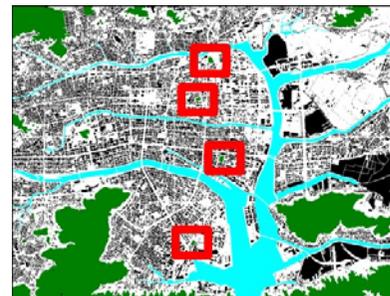
- 緊急照明 (15 lux, 視野30 m) の導入



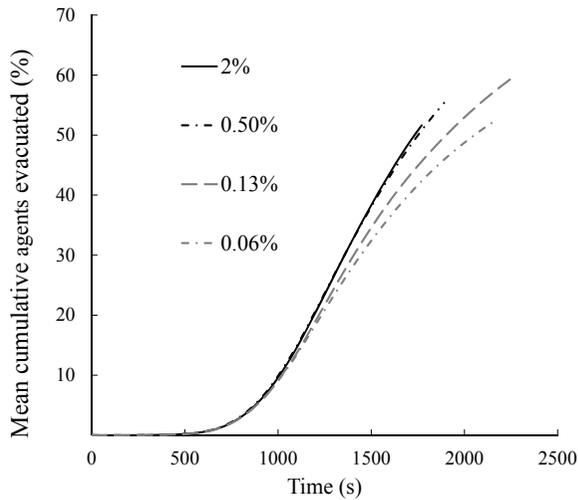
臨時津波シェルターの効果

状況

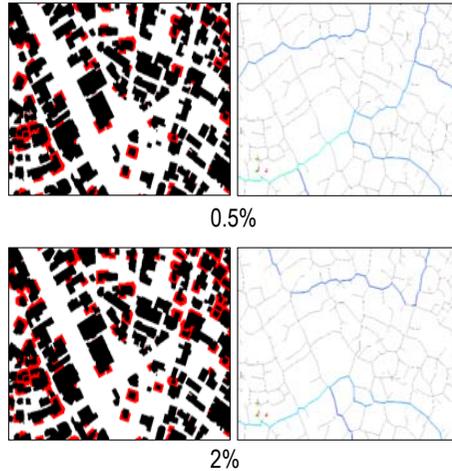
- 市の東側と西側を結ぶ橋梁は全てブロック
- 臨時津波シェルターを4か所、ブロックされた橋梁付近に設置



道路被害の程度の影響



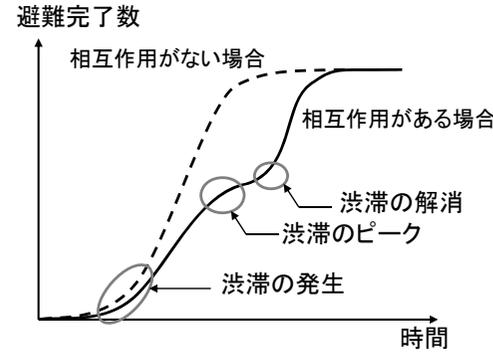
change in damaged buildings and critical road



円滑化のための利用

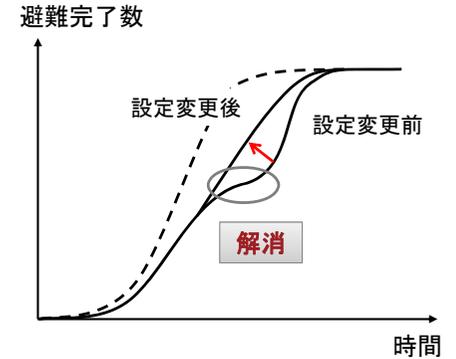
状況把握

- ① 特定のシナリオを設定
- ② 避難完了の時間推移
- ③ 遅延要因の推定



要因抽出

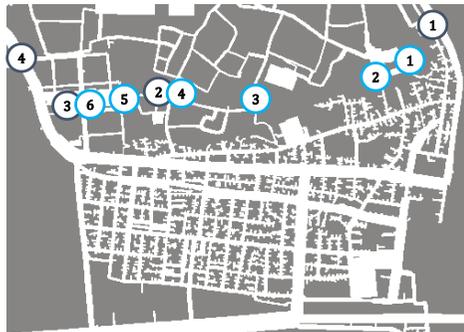
- ① 要因と推定される設定を変更
- ② 変更前後の比較
- ③ 要因の特定



問題設定

- 事例 2011年東日本大震災
- 場所 宮城県石巻市門脇町・南浜町
- 範囲 東西1.6 km × 南北1.2 km
- 人数 4890人(徒歩2750人 車両2140台)
- 種類 徒歩避難, 集団徒歩避難, 車両避難, 一時帰宅車両, 通過車両

避難場所・地点



- 信発発
- 車終点
- 車起点
- 大事業所避難開始点

避難者の設定

属性	発生地点	人数	避難場所	移動速度
1 徒歩の住民	エリア1-5	1,450人	直近の高台	70% 1.3 m/s 30% 1.0 m/s
2 車両の住民	エリア1-5	1,230台	車終点2,3に50%の割合で避難	40 km/h
3 一時帰宅車両	エリア1-5	370台	車終点2,3に50%の割合で避難	40 km/h
4 通過車両	車起終点1	60台	車終点4	40 km/h
	車起終点4	240台	車終点1	
	車起終点5	240台	車終点4	
5 集団徒歩避難	大事業所避難開始点	1,300人	高台6	1.3 m/s

5種類の避難者が10か所の避難場所に避難する複雑なシナリオ

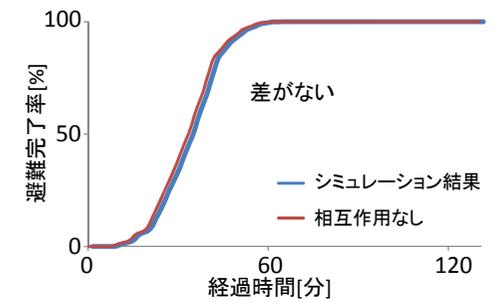
各属性の避難完了時間

属性	避難完了時間 [分]
1 徒歩の住民	63
2 車両の住民	127
3 一時帰宅車両	127
4 通過車両	103
5 大事業所からの集団徒歩避難	42

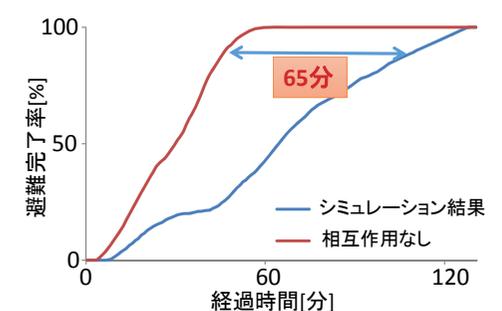
車両避難に創発を確認

結果

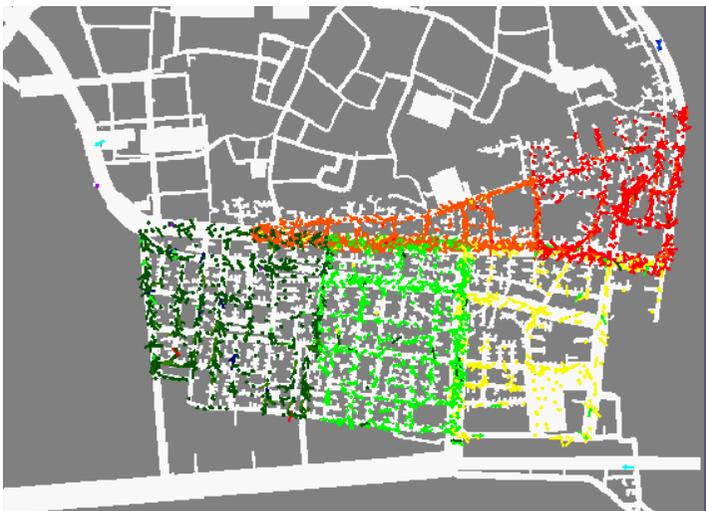
徒歩避難者の避難完了の推移



車両避難者の避難完了の推移



避難状況



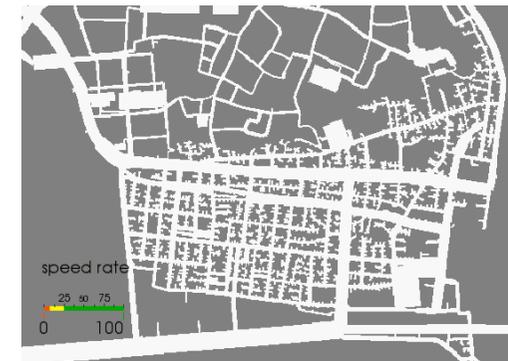
○ 人のエージェント
 ← 車のエージェント
 発生エリア別に色分け

車両避難に渋滞発生

避難状況



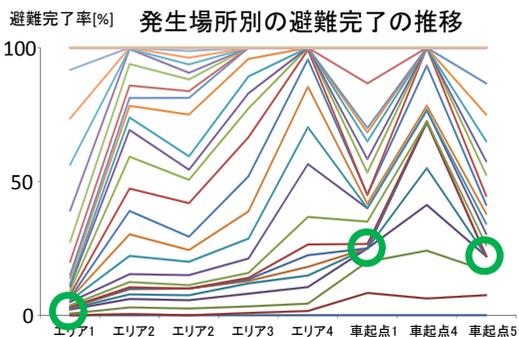
避難者の密度



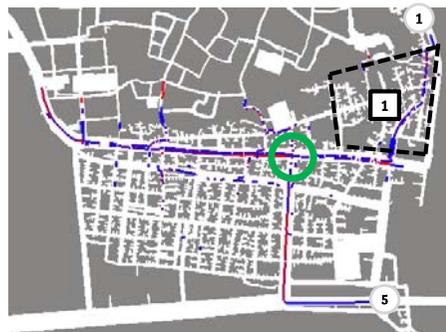
避難者の移動速度

避難者の混雑量や移動速度により、定量的に渋滞を確認

状況把握①



避難者の密度

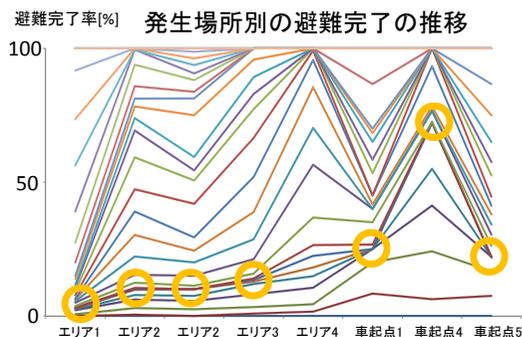


● 地点A □ 住民発生エリア ○ 車起点

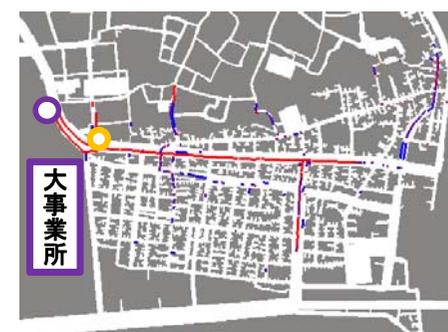
疎 スムーズな避難
 密 遅延発生

地震発生より20分後、地点Aで渋滞発生
 推定される渋滞の要因 **地点A: 交差点に車の集中**

状況把握②



避難者の密度



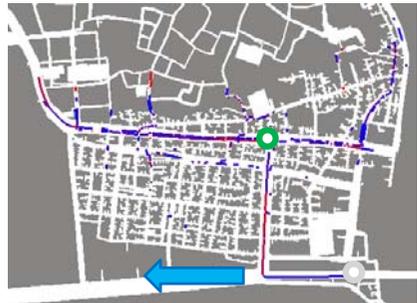
● 地点B ○ 大事業所避難開始点

疎 スムーズな避難
 密 遅延発生

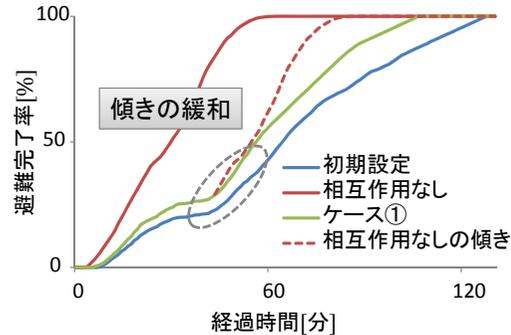
地震発生より30分後、地点Bで渋滞発生
 推定される渋滞の要因 **地点B: 集団徒歩避難の集中**

要因抽出(ケース①)

- 推定される渋滞の要因 地点A: 交差点に車の集中
- 設定変更 車の避難経路の変更
- 要因 交差点への車の集中

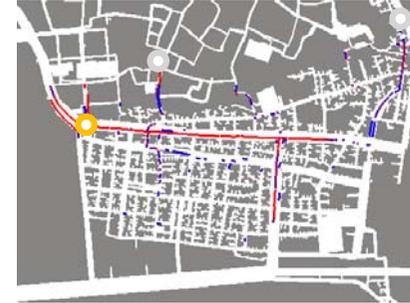


● 地点A ● 車起点⑤ ← 経路変更箇

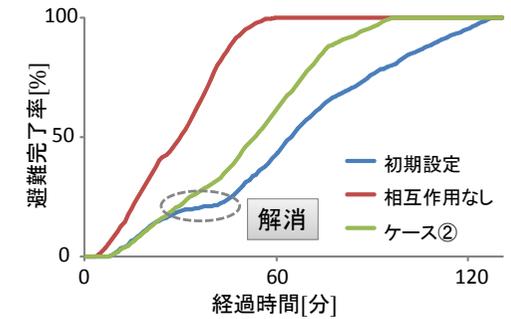


要因抽出(ケース②)

- 推定される渋滞の要因 地点B: 集団徒歩避難の集中
- 設定変更 車の避難場所変更
- 要因 集団徒歩避難者の集中



● 地点B ● 避難場所変更箇



避難状況の比較(ケース②)

● 変更後の避難場所



初期設定



設定変更後

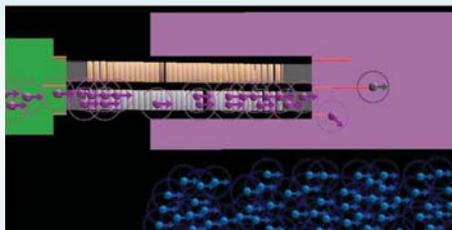
全体的に渋滞が短縮されたが、新たな渋滞発生

おわりに

- ◆ スーパーコンピュータ
 - 並列計算機と並列計算
多数の計算ユニットを有する並列計算機を、利用する先端プログラムを使った並列計算
- ◆ 都市と構造物の地震シミュレーション
 - 都市モデル・構造モデルを使った並列計算
- ◆ 群集避難のシミュレーション
 - 人や自動車のモデルを使った並列計算

「震災対策技術展」宮城 併催セミナー 主催 日本地震工学会

避難シミュレーションの活用事例



2015年8月6日

末松孝司

(株)ベクトル総研 代表取締役

東京工業大学大学院 総合理工学研究所 連携教授

「本日の内容」

- 1 シミュレーションの概要
・活用目的、事例紹介
- 2 避難シミュレーションの概要
・位置づけ、事例、機能
- 3 現状の課題とニーズ
・データ管理、精度、効果、普及
- 4 課題やニーズに対する取り組み
・モデルの精度
・継続性と協力の促進

2

業務実績

- 避難シミュレーション
 - SIP(戦略的イノベーション創造プログラム レジリエントな防災・減災機能の強化) :内閣府
 - 駅構内避難誘導シミュレーション研究 :JR東日本
 - インドネシア津波避難シミュレーション :JICA、JST、東京大学地震研究所
 - 大都市大震災軽減化特別プロジェクト :文部科学省、防災科学技術研究所
 - 愛知万博会場避難シミュレーション解析 :三菱総合研究所
 - 木造密集地火災延焼からの避難シミュレーション :東京都都市整備局
 - 都市再生安全確保計画(横浜市、名古屋市) :日建設計
- 群集流動解析(流動調査・シミュレーション)
 - 新千歳空港ターミナル旅客流動解析 :北海道空港
 - ターミナル駅の乗り換え旅客数推計 :東急電鉄、東急設計コンサルタント
 - 駅ホーム旅客流動シミュレーションシステム開発納品 :JR東日本
 - イベントホールにおけるトイレやエスカレータの適正規模検証 :日建設計
- 交通シミュレーション
 - 大型商業施設駐車場シミュレーション評価 :主要政令市納品、鹿島建設、三菱地所設計
 - 東京ディズニーリゾート交通処理解析 :オリエンタルランド、東急総合研究所
 - FIFAワールドカップ会場輸送計画 :三菱総合研究所
 - 九州大学移転交通シミュレーション検討 :福山コンサルタント
- 環境対策、その他
 - ビル人流特性を考慮した省エネ簡易システム :環境省 地球温暖化対策技術開発事業
 - 鉄道施設(トンネル、軌道)での各種計測・解析(ビデオ画像解析) :鉄道総合技術研究所

3

各種事業におけるシミュレーションの背景、位置づけ

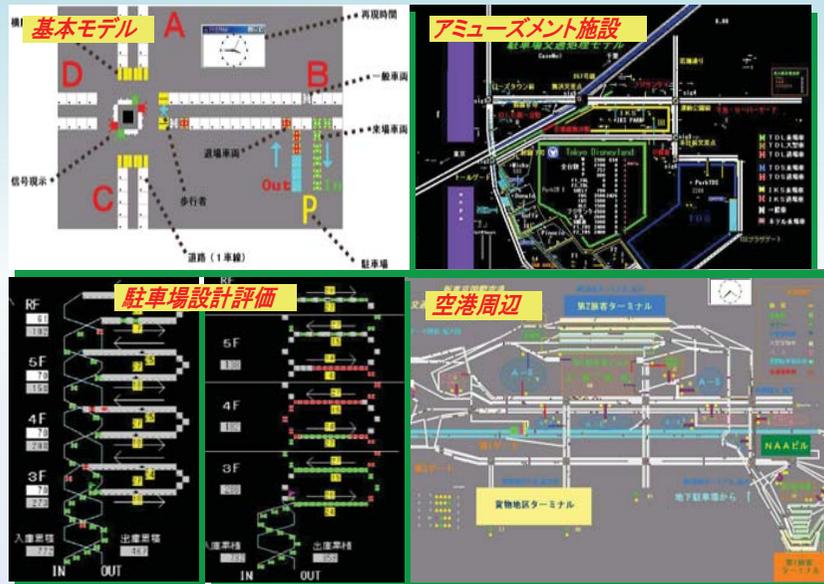
これまで地域や施設の整備は、一律的基準や経験・勘で計画、管理されてきた。しかし、対象の大規模化・複合化や管理効率化への移行に伴い、**利用特性に合致した安全確保と効率処理とコストダウンとの最適化ニーズ**が高まり、利用実態に則した科学的根拠のある設計・管理指標、手法が不可欠となっている。



- ※ **いくつもの想定ケースを評価する必要性**
(需要予測値、処理効率精度のばらつき)
- ※ **多角的、相関的視点からの判断の必要性**
(部分的、断面的、平均的な検証の限界)
- ※ **計画/管理権者の状況(動的)認識共有化**
(計画策定業務の効率化、コスト削減)
(リアルタイム管理、教育への応用)

4

道路交通、駐車場シミュレーション



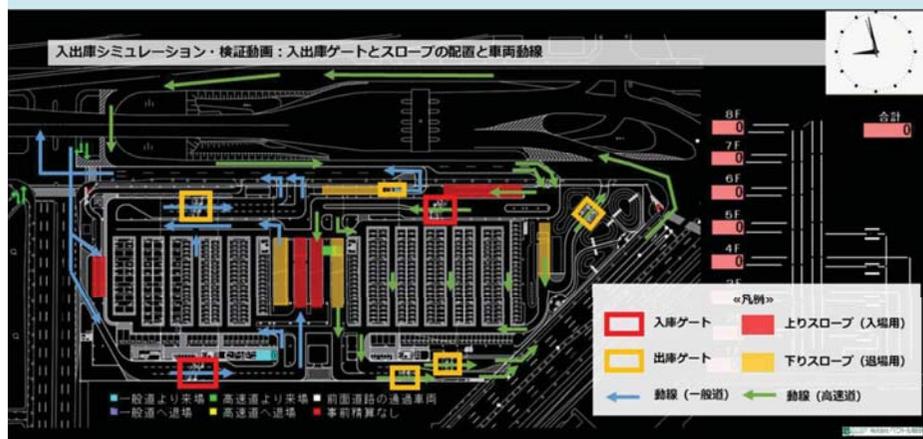
5

道路交通、駐車場シミュレーション (アミューズメント施設)



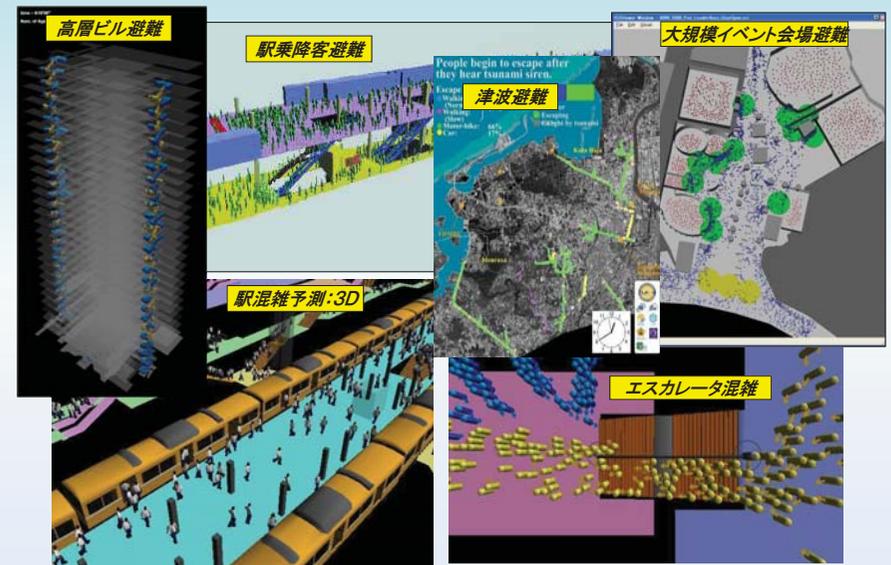
6

駐車場シミュレーション (商業施設)



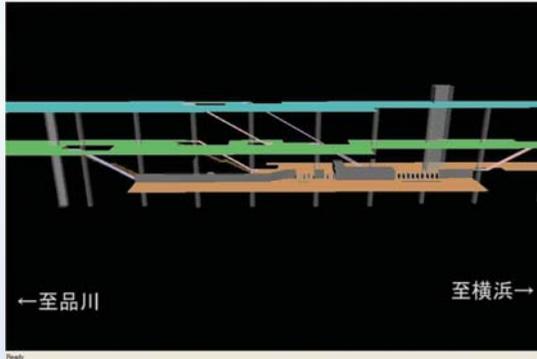
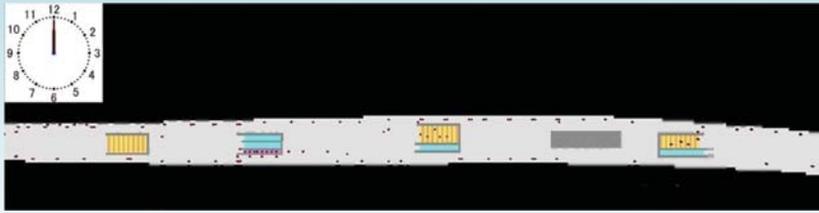
7

群集シミュレーション



8

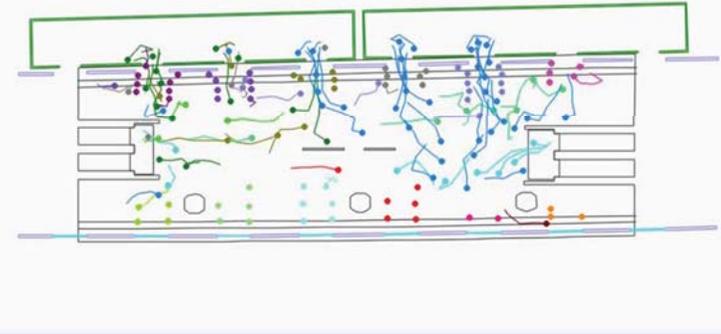
事例紹介 (駅ホーム改良に伴う混雑度評価)



9

事例紹介 (駅ホームドア設置に伴う流動処理評価)

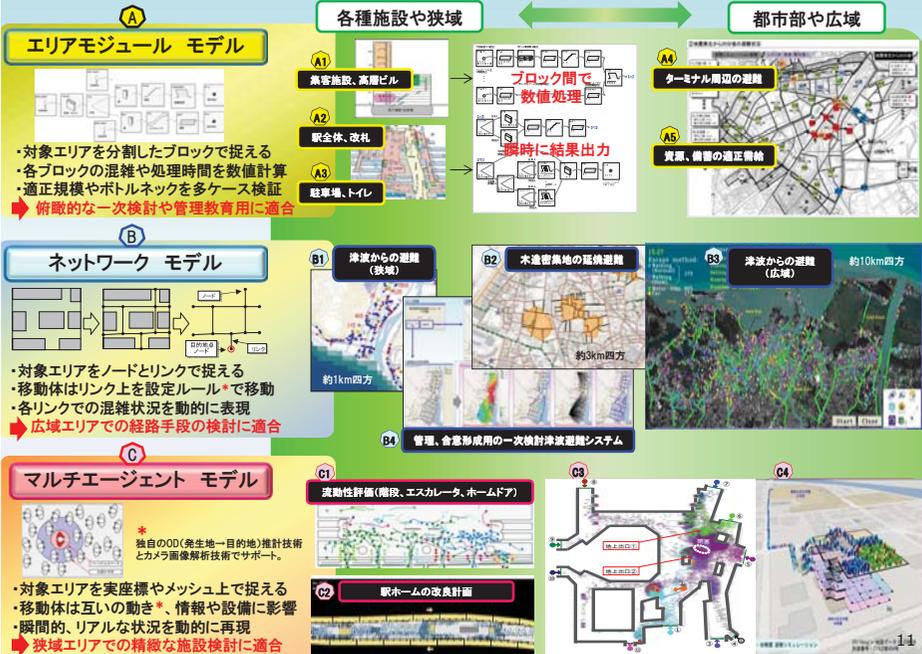
8:36:57.6 (Elapsed time after doors open 0:00:05.5)



- 狭隘部での旅客動線の確保を確認
- 列車待ち徒列方法
- 再現精度確認済み (95%)

10

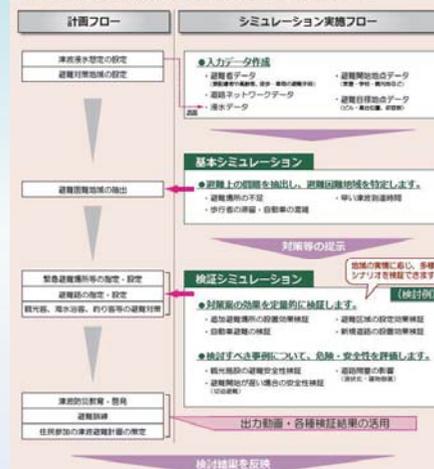
シミュレーションの活用マップ 人やモノ、情報の動きを捉え、現状課題や改善効果を効率的に検証



シミュレーションの位置づけ 地域防災計画の支援

津波防災の計画をサポート

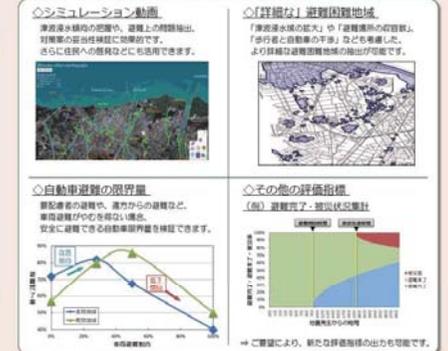
避難上の問題点を的確に抽出し、有効性の高い対策を導出できます。



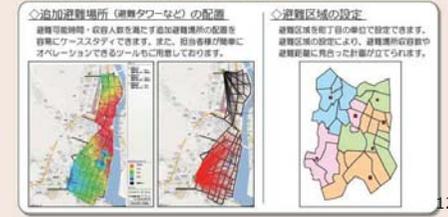
津波避難計画の策定 / 津波防災まちづくりの計画策定

ハザードマップの作成 / 津波避難ガイドラインの作成

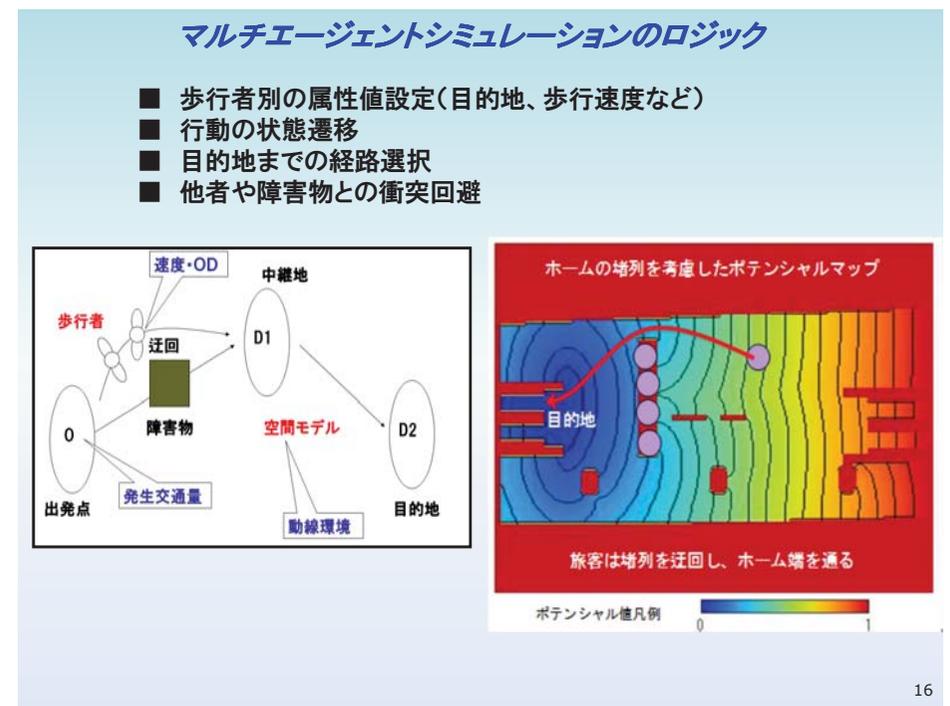
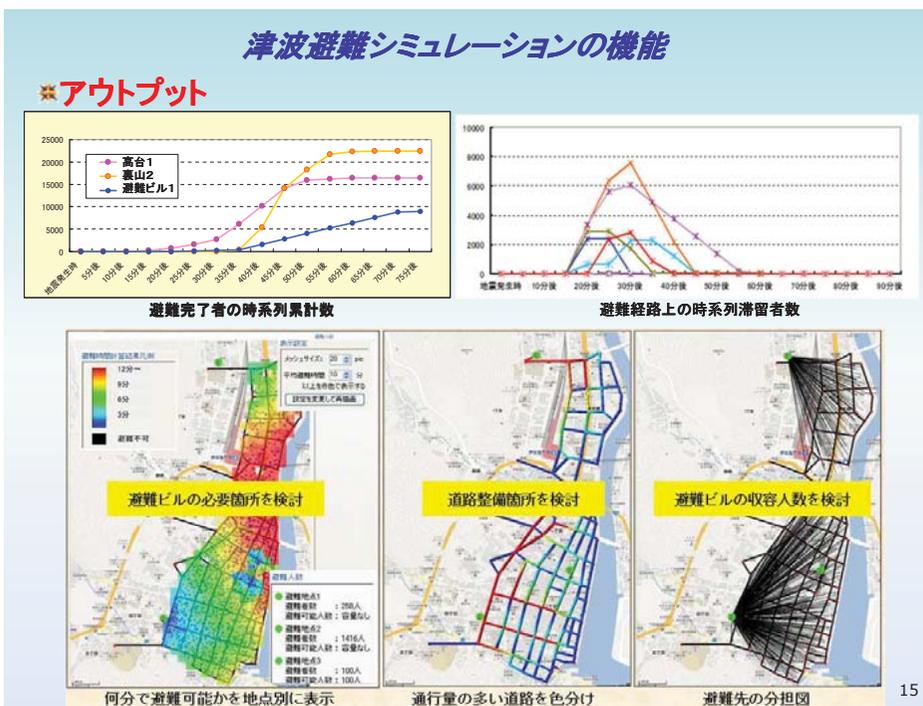
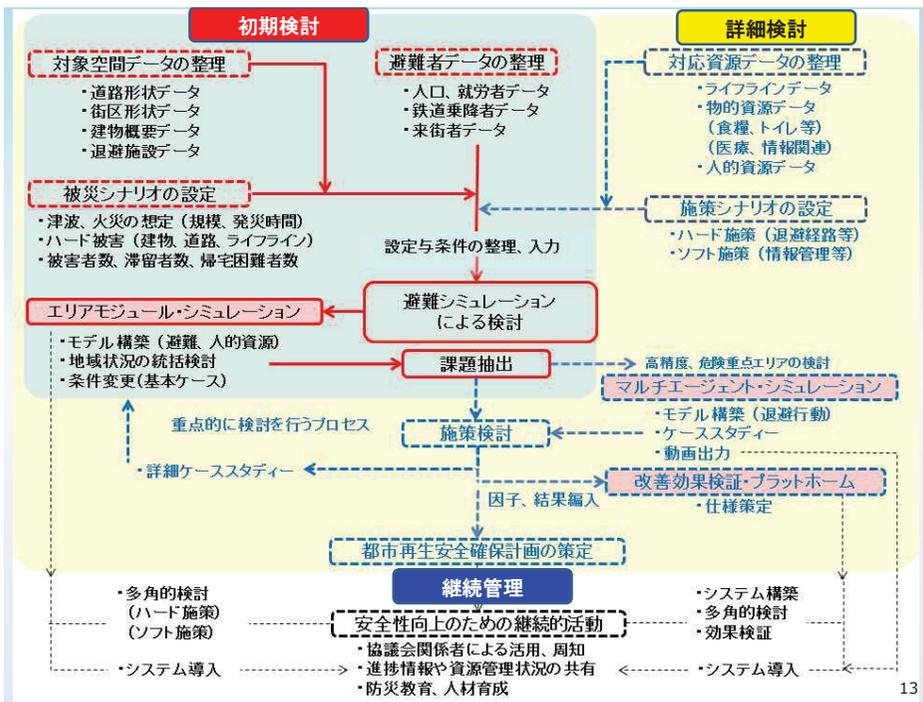
津波避難の計画に活用できる出力項目



計画時のケーススタディサポート

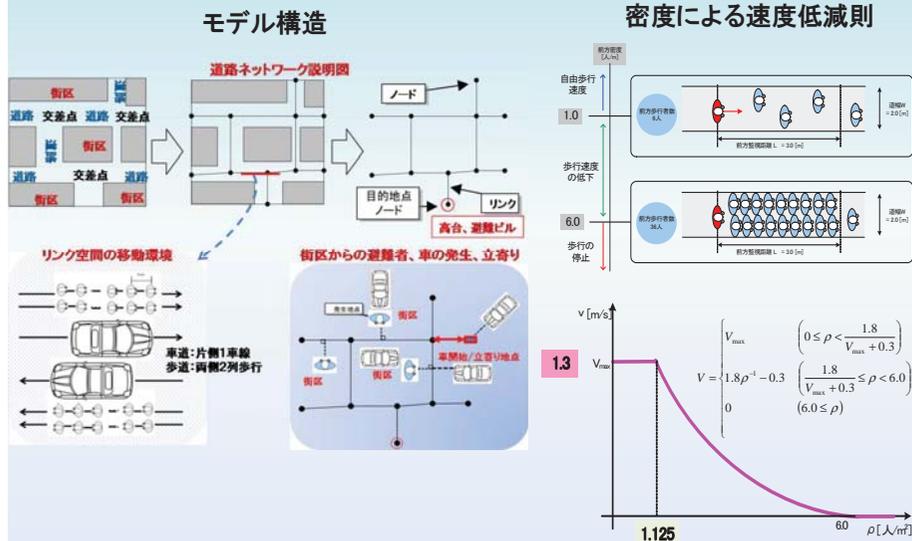


12

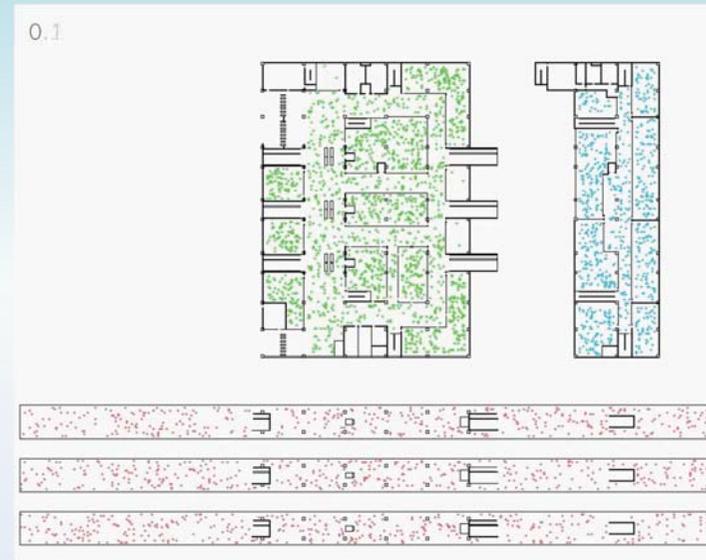


津波避難シミュレーションの機能

※ 制御ルール

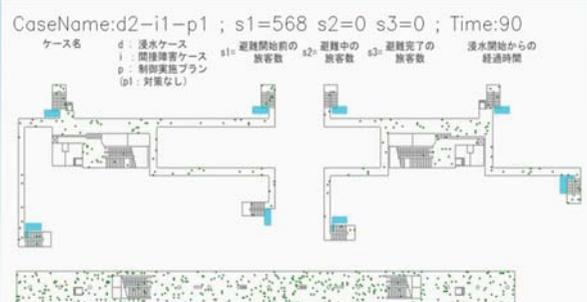


駅ナカ施設避難検証 火災避難

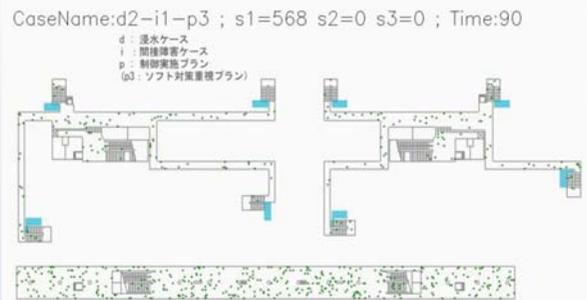


事例紹介 (地下施設での浸水避難検証)

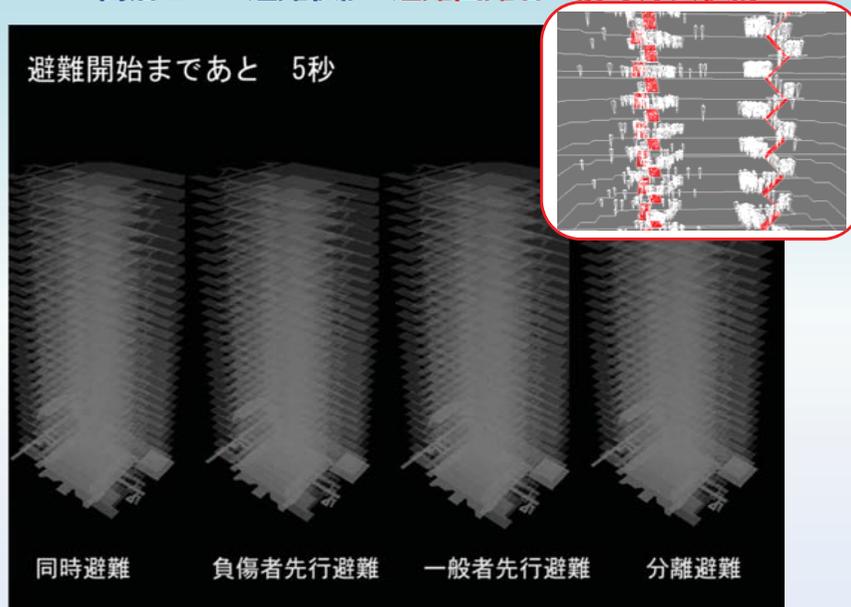
対策なし



ソフト対策あり
(非常放送ほか)



高層ビルの避難検証 避難困難者の誘導方法検討

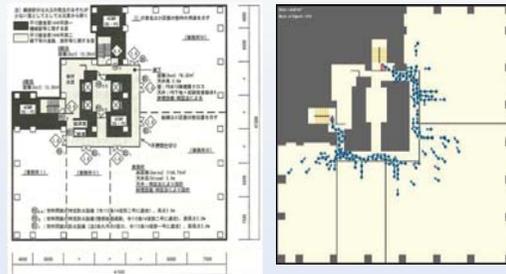
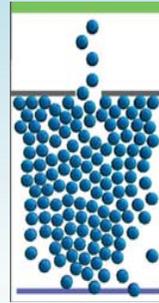


学会等での避難シミュレーション検討

日本火災学会:火災時の避難行動専門委員会

避難シミュレータの妥当性検討

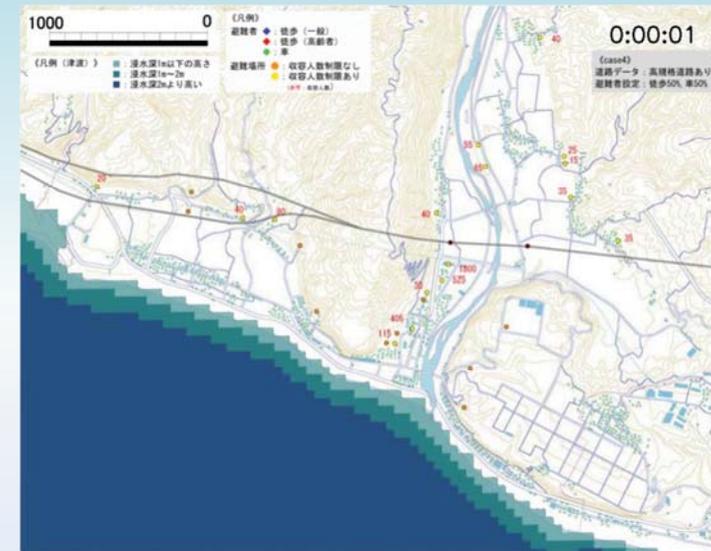
- 方法
 - ・避難安全検証法適用例を題材にしたシミュレーション比較
 - ・単純空間での開口部流動係数比較(対流動実験結果)
- 比較検討シミュレータ
 - ・竹中工務店:SimTread
 - ・清水建設:避難シミュレータ
 - ・フォーラムエイト:Exodus
 - ・ベクトル総研:D-MACS



委員氏名	所属
萩原一郎(主査)	(独)建築研究所
佐野友紀(幹事)	早稲田大学
関沢愛	東京理科大学
	大成建設(株)
	鹿島建設(株)
	(株)日本設計
	(財)鉄道総合技術研究所
	(株)竹中工務店

21

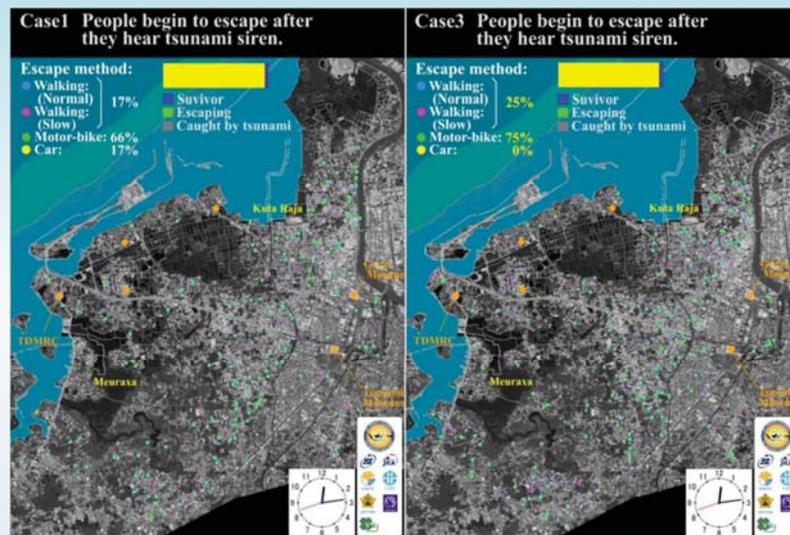
津波避難シミュレーション 地域防災計画、道路整備検討の支援



- ・各種ケース別(避難経路、避難開始時間、避難場所)の被害者数の推計
- ・避難手段別(徒歩、車)の割合変更による被害者数の推計

22

津波避難シミュレーション インドネシア現地住民向け教育ツール



地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS) 防災研究分野「開発途上国のニーズを踏まえた防災科学技術」領域
インドネシアにおける地震火山の総合防災策の成果

- ・避難手段別(徒歩、バイク、車)の割合変更による被害者数の推計
- ・各種ケース別(避難経路、避難開始時間、津波タワーの位置と数)の被害者数の推計

23

広域火災避難シミュレーション 木造密集地での同時多発火災

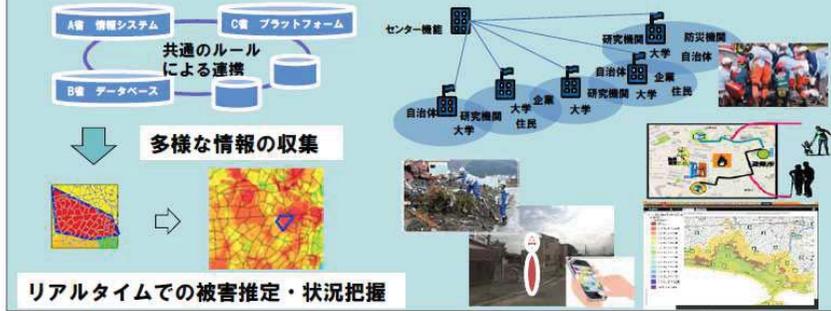


24

研究開発内容 (戦略的イノベーション創造プログラム) SIP

災害関連情報の共有 (レジリエンス情報ネットワーク)・関係機関の災害情報充実

多様なユーザーに対する災害情報の活用技術・伝達技術の開発



内閣府の総合防災情報システムを始めとする防災システムへの貢献

自治体、企業、個人への災害情報利活用に資する技術の提供

総合科学技術会議
COUNCIL FOR SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

継続性と協力を促進する仕組み (イメージ)

- ・協議会関係者による活用、周知
- ・進捗情報や資源管理状況の共有
- ・防災教育、訓練、人材育成



- ・共有活用 (連携検討: 役割分担、シナリオ設定、疑似防災訓練)
- ・独自活用 (社外秘検討: 設備計画、社内管理マニュアル)
- ・地域の安全度向上、進捗結果の提示、更新



シミュレーションで考える 災害と避難の関係

2015/08/06
(株)構造計画研究所 営業本部
常務執行役員 荒木 秀朗

＜お願い＞
・この資料およびその内容を、弊社に無断で使用、複写、破壊、改竄すること、
ならびに第三者へ開示すること、漏洩すること、あるいは使用させることは、固くお断り申し上げます。

本日の内容

1. 避難シミュレーションにおける論点
2. 当社が考える避難計画の重点
3. 会社紹介
4. 災害シミュレーション事例
5. 避難シミュレーション事例
6. まとめ

1.避難シミュレーションにおける論点

避難シミュレーション
= 防災計画における検討・検証ツールとして有効

利用する上での注意点：
避難時間は災害によって**影響する因子**が異なる

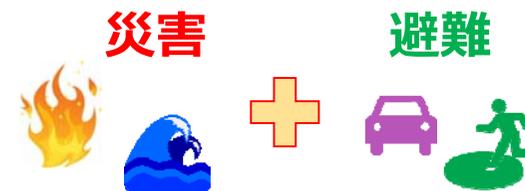
災害の種類	領域	時間	避難方法	影響因子
都市火災	区・市	短い	徒歩	発火点、延焼方向、逃げ惑い
津波	県・市	短い	徒歩、車	登坂緩急、避難所距離、渋滞
原子力災害	広域越県	長い	車	渋滞、影の避難(自主避難)
ビル火災	建物内	短い	徒歩	階段幅、誘導、煙

※台風(洪水)や大雪等は予見可能で避難時間は確保される
(避難指示のタイミング、避難所の容量や被災後の物資輸送計画が課題)

※いくつかのケースを検証 自然現象：発災位置、風向風速、天候、昼夜etc.
人間行動：パニック、一斉行動、ルール違反etc.

2.当社が考える避難計画の重点

避難シミュレーションのみでの検討：
→ 災害の進行と避難行動の相互作用が分からない



例1：地震によって避難経路がふさがる（経路閉塞）

例2：浸水で避難速度が鈍る

例3：火災や煙の影響で逃げ惑う 等々

2.当社が考える避難計画の重点

〈本発表の主題〉

時系列に進行する
自然災害(=物理力学)モデル
+
避難行動(=人間行動学)モデルを
同時に再現するシミュレーション
の事例をご紹介します

3.会社紹介

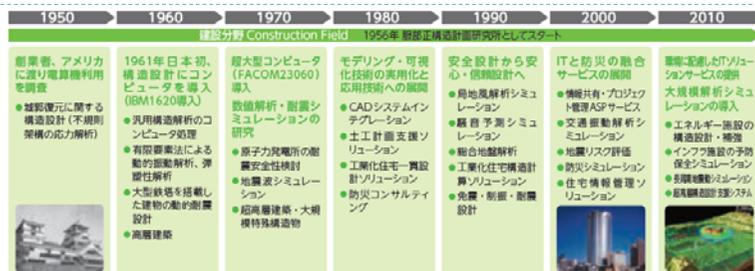
大学・研究機関と実業界をブリッジする
デザイン&エンジニアリング企業

- 設立 1959年
- 資本金 10億1,020万円
- 社員 574名(2015年7月1日時点)
- 本社 東京都中野区
- 上場市場 JASDAQ
- 事業所
 - ▶ 本所・新館：東京都中野区
 - ▶ 中野イノベーションオフィス：東京都中野区
 - ▶ 熊本構造計画研究所：熊本県菊池郡
 - ▶ 大阪支社：大阪府大阪市中央区
 - ▶ 中部営業所：愛知県名古屋市中区
 - ▶ 上海駐在員事務所：中華人民共和国上海市
 - ▶ KKE SINGAPORE PTE.LTD.：シンガポール

1961年 日本で初めて構造設計に
コンピュータを導入



3.会社紹介

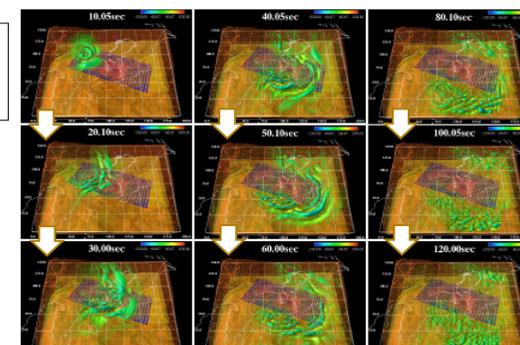
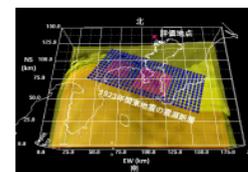


- ・ 建設分野
→物理・力学(自然災害、構造物)
- ・ 製造分野
- ・ 情報通信分野
- ・ 意思決定支援分野
→人間行動学(避難)



4.災害シミュレーション事例(地震動)

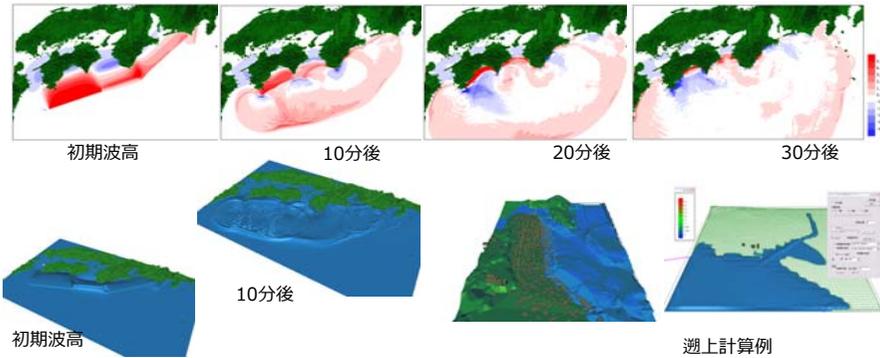
地震が発生した場合に長周期地震動の卓越が予測される関東平野を対象に1923年関東地震(関東大震災)の地震動シミュレーションを実施した事例



- ・ 同じ震源の地震でも地盤構造の違いで地表の揺れ方が違う
- ・ 地表の揺れ方と建物構造特性で被害の大きさに差が出る

4.災害シミュレーション事例(津波)

東海・東南海・南海地震3連動を想定した津波解析評価事例



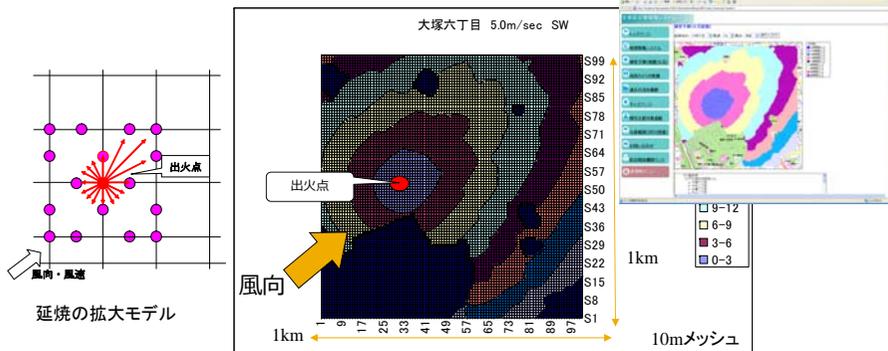
- ・津波の遡上(海岸から内陸にさかのぼる状態)を計算することで、どれくらい逼迫した状態(時間感覚)かが把握出来る

4.災害シミュレーション事例(津波)



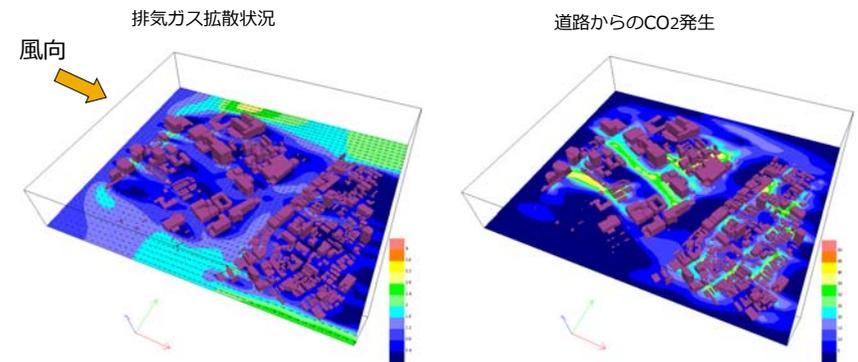
4.災害シミュレーション事例(火災延焼)

大塚六丁目 南西の風、風速5m/secと10m/sec, 湿度35% 防災対策ホームページ(文京区)



- ・発火点の数、延焼方向、延焼速度が大きく影響

4.災害シミュレーション(大気拡散)

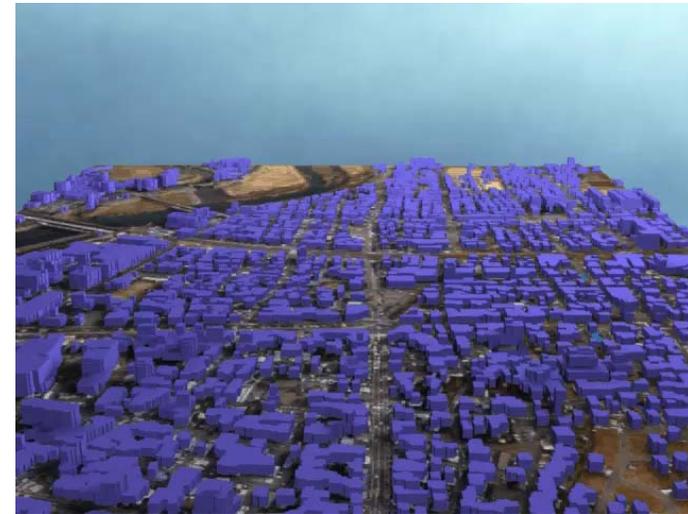


- ・大気拡散とは、・・・大気中に放出された汚染物質が正常な空気と混合、拡散し、希釈される現象
- ・風向・風速・気温・物質の比重等に影響

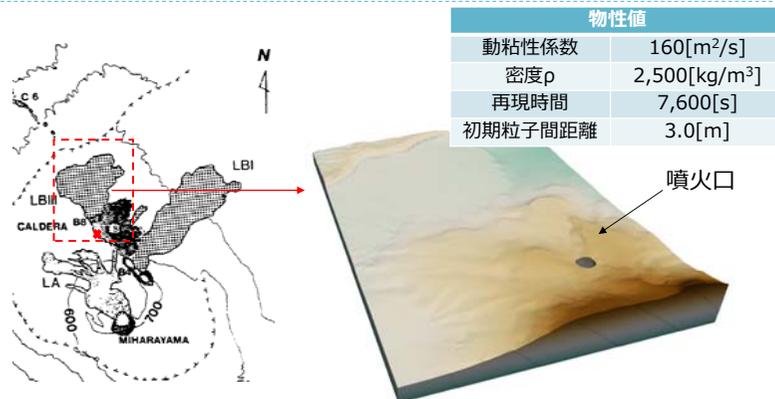
3. 災害シミュレーション事例(土石流)



4. 災害シミュレーション事例(河川氾濫)

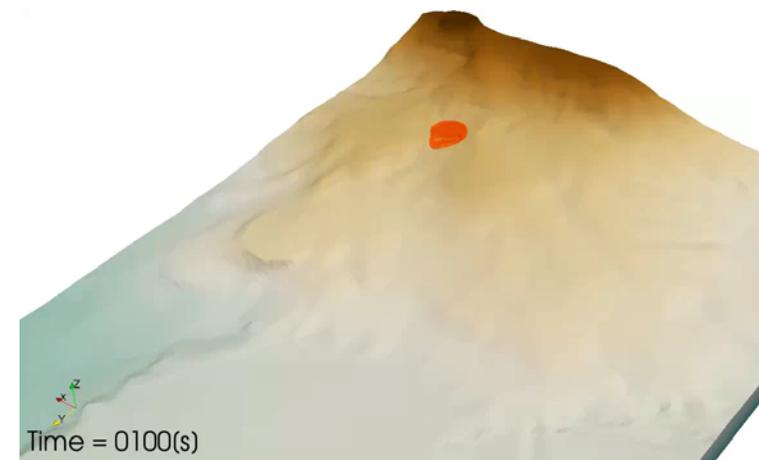


4. 災害シミュレーション事例(溶岩流)



1986年伊豆大島三原山溶岩流の再現解析 (地形は噴火後の地形)

4. 災害シミュレーション(溶岩流)



5.避難シミュレーション事例(災害+避難)

自然災害と避難の組合せで実施した具体事例

1.鎌倉市防災計画策定

津波+避難シミュレーション

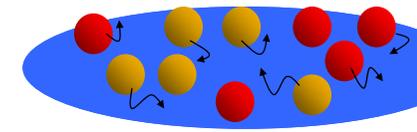
2.火災避難シミュレーション(内閣府)

火災+避難シミュレーション

※エージェントベースのアプローチを採用

5. エージェントベースシミュレーション (ABS)

エージェントベースモデル



避難者(エージェント)は、自身が取得可能な局所的な情報と行動ルールに基づいて自律的に行動する

<採用した理由>

- | | |
|-----------|------------------|
| 1. 多様性 | … 年齢/観光客などの特性 |
| 2. 情報の局在性 | … 限られた情報のみを参照する |
| 3. 限定合理性 | … 全体最適ではない行動をする |
| 4. 相互作用 | … 周囲の行動や災害の進行に影響 |
- 上記特性がシミュレーションで考慮可能

5.事例紹介：鎌倉市防災計画策定(1)

- 鎌倉市の津波の被害状況および地域特性や避難者行動を考慮しシミュレーション
- この結果は、鎌倉市沿岸地域における津波避難の課題点の抽出や、それに対応した新たな避難経路や避難場所などの施策検討に活用するとともに、ウェブで公開し、住民の津波被害や避難に関する関心と理解度の向上に役立っている

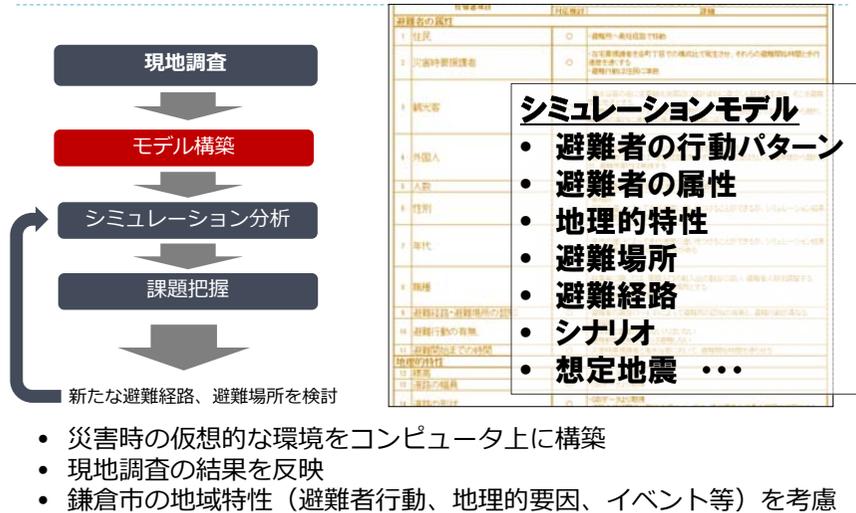


5.事例紹介：鎌倉市防災計画策定(2)

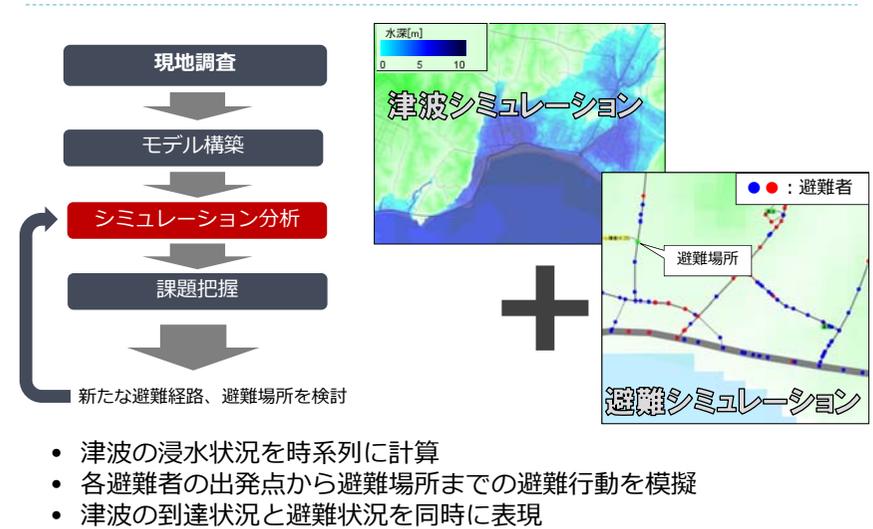


- 避難者視点で避難時に考慮されるポイントの把握
- 避難路として利用できる道路、利用できない道路の抽出
- 津波計算のための地形的特徴の把握

5.事例紹介：鎌倉市防災計画策定(3)



5.事例紹介：鎌倉市防災計画策定(4)



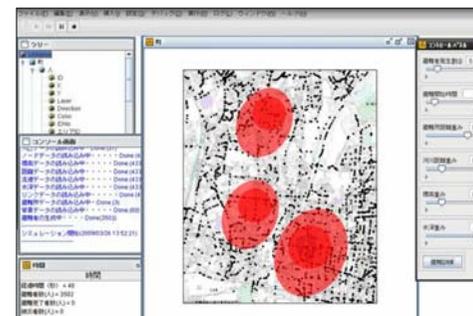
5.事例紹介：鎌倉市防災計画策定(5)



神奈川県 鎌倉市 防災HP → https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/sougoubousai/tsunami_simulation/index.html

5.事例紹介：火災避難シミュレーション(1)

- 首都直下地震時に、同時多発的に発生する火災によって発生する人的被害の検証
- 火災発生パターンや発生時刻、気象条件の違いによって、避難者の行動にどのような変化が現れるのか、様々な条件の組み合わせで検証し、被害発生程度のバラツキ、被害を最大化する要因の抽出などの検討を行った。



- ・ 何処に避難するか (避難すべき場所を知っているか?)
- ・ いつ避難するか
- ・ 避難場所までの経路で行くか
- ・ どの程度の距離まで 火に近づいたら引き返すか
- ・ 混雑に遭遇したらどうするか
- ・ 災害情報端末の可能性はどこまで?

経験のない現象に遭遇した場合、人はどのような行動をとるのか?

- ・ 内閣府 火災延焼による地震危険度の適確な把握、情報提供等に関する検討業務
- ・ 東京大学生産技術研究所 加藤孝明准教授との共同研究

5.事例紹介：火災避難シミュレーション(2)

大火による被害：

- ▶ 関東大震災(1923年) … 212,353棟消失、焼死者91,781人
- ▶ 阪神・淡路大震災(1995年) … 7,036棟全焼、焼死者 403人
- ▶ 函館大火(1934年) … 11,105棟焼損、焼死者 2,166人

首都直下地震時に予想される人的被害予想(内閣府)：2万3千人
→ 2004年想定の2倍。**火災による逃げ惑い**が考慮された。

「逃げ惑い」

- ・避難経路が、地震や火災(熱・煙)で封鎖された結果、逃げ遅れる人が大量に発生する現象。
- ・大火災で大量死を発生させる原因と言われている。

近年では市街地の不燃化対策が進み、発生の可能性は少なくなった
しかし、その発生の可能性とメカニズムを明らかにすることは重要

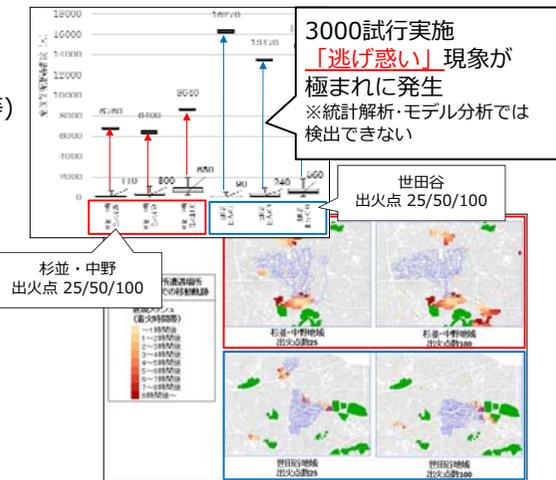
5.事例紹介：火災避難シミュレーション(2)

<火災延焼モデル>
建物種別により選択
(浜田式、堀内式、室崎式等)

地形：
建物の密集度
構造別の延焼度

出火点：
住宅、飲食店など用途の
違いにより乱数で出火

条件：
冬の18時、風速8m/s
風向は北北西



各条件における危険箇所遭遇者箇所の様子

5.事例紹介：火災避難シミュレーション(3)

火災+避難シミュレーション (危険ケース)



6.まとめ

- ▶ シミュレーション上の災害と避難の検討
 1. 時間考慮：災害進行と避難行動の時間比較
 2. 空間考慮：発災地点、進行方向と避難者位置
 3. 組み合わせ：災害パターンと人の行動特性の組み合わせ
- ▶ 活用目的
 1. 防災計画の検討・検証
 - ▶ 訓練では分からない想定外の状況から問題を把握
 - ▶ 防災、減災対策への投資効果を検証
 2. 住民への教育・啓蒙
 - ▶ 被害状況と避難状況を具体的に見せることによる防災意識の向上と合意形成